



## PHY コマンド

---

この章は、次の項で構成されています。

- [test cable-diagnostics tdr](#) (2 ページ)
- [show cable-diagnostics tdr](#) (3 ページ)
- [show cable-diagnostics cable-length](#) (4 ページ)
- [show fiber-ports optical-transceiver](#) (5 ページ)

# test cable-diagnostics tdr

タイムドメイン反射率計（TDR）技術を使用してポートに接続された銅線ケーブルの品質と特性を診断するには、**test cable-diagnostics tdr** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

## 構文

**test cable-diagnostics tdr interface** *interface-id*

## パラメータ

**interface-id** : (オプション) イーサネット ポート ID を指定します。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## 使用上のガイドライン

このコマンドはファイバポートでは機能しません（デバイス上に存在する場合）。テスト対象のポートをファイバポートと組み合わせていない限り、テスト中はシャットダウンする必要があります。この場合、テストはファイバポートでは機能しないため、シャットダウンする必要がありません。

TDR テストのケーブルの最大長は 120 メートルです。

**例 1** : ポート `gi1/0/1`（銅線ポート）に接続された銅線ケーブルをテストします。

```
switchxxxxxx# test cable-diagnostics tdr interface gi1/0/1
Cable is open at 64 meters
```

**例 2** : ポート 2（ポートとファイバの組み合わせ）に接続した銅ケーブルをテストします。

```
switchxxxxxx# test cable-diagnostics tdr interface gi1/0/2
Fiber ports are not supported
```

## show cable-diagnostics tdr

すべての銅線ポートまたは特定の銅線ポートで最後に実行したタイムドメイン反射率計（TDR）テストの情報を表示するには、**show cable-diagnostics tdr** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

### 構文

```
show cable-diagnostics tdr [interface interface-id]
```

### パラメータ

- **interface-id** : (オプション) イーサネット ポート ID を指定します。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### 使用上のガイドライン

TDR テストのケーブルの最大長は 120 メートルです。

### 例

次の例では、すべての銅線ポートで最後に実行した TDR テストの情報を示します。

```
switchxxxxxx# show cable-diagnostics tdr
```

Port	Result	Length [meters]	Date
----	-----	-----	-----
gi1/0/1	OK		
gi1/0/2	Short	50	13:32:00 23 July 2010
gi1/0/3	Test has not been performed		
gi1/0/4	Open	64	13:32:00 23 July 2010

## show cable-diagnostics cable-length

すべてのポートまたは特定のポートに接続されている銅ケーブルの予想長さを表示するには、**show cable-diagnostics cable-length** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

### 構文

```
show cable-diagnostics cable-length [interface interface-id]
```

### パラメータ

- **interface-id** : (オプション) イーサネット ポート ID を指定します。

### コマンドモード

特権 EXEC モード

### 使用上のガイドライン

ポートはアクティブである必要があります。リンクが 100 Mbps で動作している場合、ケーブル長の結果は使用できません。インターフェイスでグリーンイーサネット ショート リーチ機能が有効になっている場合、このコマンドで提供されるケーブル長の結果が影響を受けることがあります。

### 例

次の例では、すべてのポートに接続されている銅ケーブルの予想長さを示します。

switchxxxxxx# show cable-diagnostics cable-length	
Port	Length [meters]
----	-----
gi1/0/1	< 50
gi1/0/2	Copper not active
gi1/0/3	110-140

# show fiber-ports optical-transceiver

光学トランシーバ診断を表示するには、**show fiber-ports optical-transceiver** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

## 構文

```
show fiber-ports optical-transceiver [interface interface-id]
```

## パラメータ

- **interface-id** : (オプション) イーサネット ポート ID を指定します。

## デフォルト設定

すべてのポートが表示されます。detailed を使用しないと、提供ポートについてのみ表示されます。

## コマンドモード

特権 EXEC モード

## 例

```
switchxxxxxx# show fiber-ports optical-transceiver
  Port      Temp  Voltage Current Output  Input  LOS
           [C]   [Volt] [mA]    Power  Power
           [mWatt] [mWatt]
-----
  gil/0/1   Copper
  gil/0/2   Copper
  gil/0/3   28    3.32   7.26   3.53   3.68   No
  gil/0/4   29    3.33   6.50   3.53   3.71   No
Temp       - Internally measured transceiver temperature
Voltage    - Internally measured supply voltage
Current    - Measured TX bias current
Output Power - Measured TX output power in milliWatts
Input Power - Measured RX received power in milliWatts
LOS        - Loss of signal
N/A - Not Available, N/S - Not Supported, W - Warning, E - Error
```

■ show fiber-ports optical-transceiver

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。